文部科学大臣杯 **第47回全日本中学ボウリング選手権** 7月24～26日／キョーイチボウル宇治

男子・齋藤大哉、女子・渡邉陽選手 真夏の決戦を制し頂点に

第47回全日本中学ボウリング選手権大会が、梅雨明けしたばかりの7月24日から3日間、京都・宇治市のキョーイチボウル宇治を舞台に、男子133名、女子80名が参加して熱戦を繰り広げたが、男子は齋藤大哉選手（埼玉・川口市立戸塚中）が、同じ埼玉勢との競り合いを制して優勝、女子は、渡邉陽選手（広島・福山市立東中）が予選から独走で、男子の齋藤選手とともに、2年生で初優勝を飾った。

▲ともに2年生で全国制覇の齋藤選手（左）と渡邉選手

男子・埼玉県勢の争い

男子は、予選（9G）を2088で齋藤大哉選手が1位、2位に2006で中川結雅選手（開智学園総合部）、3位に1983で五月女瑛太選手（川口市立上青木中）と、上位を埼玉県勢が独占していた。

決勝（3G）も齋藤選手が615と手堅くまとめ、トータル2703で優勝を飾った。最終G、1フレからの5連発などで266を打って猛追した五月女選手は、中川選手は逆転したものの、齋藤選手には27ピン及ばず2位、また五月女選手に10ピン逆転された中川選手だが、1年生で3位に食い込み、決勝でも埼玉勢が上位3位までを守った。

▲昨年は4位の齋藤選手、1年間の練習の成果を発揮して見事優勝

▲決勝は693を打って追い上げたが準優勝の五月女選手

▲1年生で3位入賞を果たした中川選手

女子・渡邉選手が快走

女子は、予選2回戦で678を打ってトップに立った渡邉陽選手が、ただひとりアベ200アップの1915を打って、1位で決勝に進出した。渡邉選手から123ピン差の2位に藤田妃夏選手（東京・渋谷区立代々木中）がつけ、さらに39ピン差で藤原彩花選手（京都・宇治市立西小倉中）が続いていた。

渡邉選手は決勝の2G目に157と落としたが、最終Gは244と挽回、トータル2538で危なげなく逃げ切った。藤田選手は、藤原選手を23ピン差退ける2375で2位を守った。

▲女子はH/G、H/S賞も獲得した渡邉選手が快勝

◀最終学年だっただけに悔しい2位の藤田選手

▲女子では珍しい両手投げの藤原選手が1年生で3位に食い込んだ

WORLD TOPICS **OCA 会長選挙** Vol.5 report **山下 知且**

アジアオリンピック評議会（OCA）は、アジアのすべてのスポーツを統括する団体で、1982年にクウェートのシェイク・ファハド・アル・サバーハによって設立されました。シェイク（Sheikh）とは、アラブ民族の首長を意味し、クウェートを統治するサバーハ家の人々には、名前の前にシェイクが付きます。

OCAの創設者であるシェイク・ファハドは、1990年のイラクによるクウェート侵攻の際に戦死し、その息子であるシェイク・アハマドが1991年に会長に就任。1992年からは国際オリンピック委員会（IOC）の委員でもありましたが、2021年にスイスで起訴され有罪判決を受けて、OCA会長とIOC委員の職を退きました。

▲昨年の5月にIBF会長を辞任したが、5カ月後に復帰したシェイク・タラル氏

国際ボウリング連盟（IBF）とアジアボウリング連盟（ABF）の会長であるシェイク・タラル・モハメド・アル・サバーハは、そのシェイク・アハマドの従兄弟にあたります。

7月8日にタイで行われたOCAの会長選挙では、前会長シェイク・アハマドの弟であるシェイク・タラル（IBF会長とは別人物）と、シェイク・アハマドの元側近で、世界水泳連盟会長のフセイン・ムサラム氏が立候補しました。クウェート人同士の選挙戦。IOCから選挙に介入しないようにとの勧告を受けた前会長のシェイク・アハマドでしたが、タイに入り、弟の選挙戦を支援したとも伝えられています。

▲OCA新会長のシェイク・タラル氏

結果は24対20でシェイク・タラルが勝利しました。スポーツ界におけるサバーハ家の影響力を、依然として強く示すものでした。

ボウリング界のシェイク・タラル会長は、財務的な不正疑惑を報じられ2022年5月に会長を辞任しましたが、同年10月には会長に復帰しました。しかしながらこの不正疑惑報道の余波は大きく、スポーツボウリングの国際的な評価にさまざまな面で影響が出ていると言わざるを得ません。

本年10月、そのクウェートにて国際ボウリング連盟の総会、そして役員改選選挙が行われます。

やました・ともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年～2011年ナショナルチーム在籍。長崎県スポーツ協会職員。JBC国際委員会委員、長崎県連常任理事。2022年からIBFアスリート委員